榛名神社社報

発行日 平成十五年七月十五日
発行所 沼田市榛名町二八五一
電話〇二七㊇二六五五
発行人 金子由紀子

榛名神社由緒

鎌倉時代、榛名山御師の活動により榛名神社の信仰が広められ、榛名様が勧請されました。やがて、榛名宮は建長七年（一二五五）には沼田郷総鎮守と崇められ、やがて正応元年（一二八八）春名権現再建立、同じく三年、鐘が鋳造され奉納されたという記録があります。

また、一二九八年、上野国神名帳に寶高大明神（尊様）、薄根大明神（天神様）の名がみえ、また一書には武尊様は九世紀、ホタカ山から御神体として石を持ってきて現在の沼田公園内にお祀りしたとあります。

その後、戦国時代となり、沼田万鬼斎顕泰は武尊様の社地に新たに城（倉内城）を建てることを決め享禄二年（一五三〇）上を武尊大明神、中を榛名大権現、下を天満天神として現社地に合わせ祀り、社殿を建立。元和元年（一六一五）真田信之公が改築し、現在に至っています。

明治二年、神仏分離令が発令され、榛名大神と改め、明治五年氏子分離の許諾により、上之町等六ヶ町は須賀神社の氏子に改め、現在の氏子区域となっています。

以後、明治六年郷社に定められ、昭和三年縣社に昇格、戦後は宗教法人となりました。

また、諏訪大神は、古来瀧棚（上町）に鎮座され寛政年間に榛名神社の西に遷座せられましたが、明治四一年合祀されました。

当社は、沼田氏・真田氏・本多氏・土岐氏と代々城主の崇敬を受け、数々のご奉納の記録があり、現在も本殿の御扉の上には真田家の家紋である六紋銭が描かれ、また本多正永公御奉献の木造鳥居は、一昨年暮れ、補強工事を完了致しました。

豊かな自然と年中行事

私たちの祖先は、農耕を生活の中心に、豊かな自然の中で、さまざまな文化を育んできました。豊作への祈りと、感謝を捧げながら毎年繰り返される行事や儀礼はさまざまな習俗として今日に至りました。いわゆる年中行事と呼ばれるものです。

今回は祖先から綿々とうけつがれてきた文化（年中行事）を、改めて考えてみたいと思います。

お正月　お正月は、注連飾りをし、門松を立てて歳神さまをお迎えします。一年ごとに新しい生命の力をいただき、いつまでも変わらない世の平安をお祝いします。歳神さまは、私たちの祖先とも考えられ、お正月には祖先が子孫である私たちを祝いにくると考えられています。

右手に包丁、左手にスリコギ棒を持って六日の夜、家族みんなでたべます。七草は五日には神様にお供えして七日におかゆにいれていただきます。

松納め　一月七日が一般的。（この辺は十三日）

鏡割り　一月十一日

どんど焼き　二月三日（追儺式、もともと立春から新年であるとの考えから、前日の夜に豆をまいて罪穢れを祓いました）

節分　一月二十日（十日が一般的）

戎祭り　一月二十日（十日が一般的）

初午　立春後の最初の午の日

桃の節句　三月三日（桃は邪悪ものを祓い清める霊力が宿るとされてきました。もともとは人形に罪穢れを背負わせて流した行事）

春分の日　この日をはさむ前後七日間は春の彼岸。彼岸は祖先の霊を供養する仏教行事ですが、この日の印象が強いのですが、本来はわが国固有の祖先のみたま祭の行事。

端午の節句　五月五日（菖蒲湯に入ったり菖蒲酒を飲んだりする。その強い香りが邪気を祓うと信じられ、武者人形もこれら魔を祓うと考えられ、武者人形から始まったと考えられています。鯉のぼりは本来、お田植祭に神さまを迎えるものとされています。家の目印から発達したものとされています。

夏越大祓　六月三十日（夏の半期に自然についた罪穢れを祓清める行事）

七夕　七月七日　古代中国大陸の織女の星伝説とわが国の棚機女（年に一度水辺のはた屋で神さまのお供えをしたことから、一夜を過ごす聖なる乙女）の信仰とが結び付いた行事。お盆に祖先の御霊を迎える前にすべてを清める禊祓が、七夕の原型ではなかったかと思われています。

お盆　八月十三、十四、十五日　本来日本固有のみたま祭の行事。迎え火をたいて祖先の御霊を迎えます。家にお迎え御霊をお慰めするとともに子孫の繁栄を祈願。また盆の期間が終わると送り火をして御霊送りをします。

お月見　旧八月十五日　すすきの穂を供えるのは稲穂の変化した形ともいわれています。本来は豊作の象徴です。満月に秋の七草やだんご、季節の野菜などを供えて、月をまつる神祭りの日です。もともとこの頃出る里芋を炊いて供えたのが原型とされます。

秋分の日　この日をはさむ前後七日間は秋の彼岸。冬至に向かって力を増すと同時に、人の生命力も稲の信仰があります。また冬至の日かぼちゃやこんにゃくなどを食し、ゆず湯に入るのも、太陽の光の強い時季にできた野菜を神さまに供え、私たちもその力をいただくという意味です。

冬至祭　この日は、最も弱まった日。太陽は秋の彼岸。弱まった力を増すと同時に、魂も生まれ変わるという日本古来の信仰があります。また冬至の日かぼちゃやこんにゃくなどを食し、ゆず湯に入るのも、太陽の光の強い時季にできた野菜を神さまに供え、私たちもその力をいただくという意味です。

松迎え　十二月二十八日

大祓え　十二月三十一日（下半期に自然についた罪穢れを祓清める行事）

除夜　十二月三十一日　古代中国大陸の暦を除夜というのは、眠らずに夜静かに謹んで迎える習慣のお正月を迎えるのが古くから大晦日の過ごし方といえます。また、年ごろもものっとり、こうした習わしに神社にお籠もりするとともに神社にお参りする初詣のかたちとなったのです。ちょうど二年にまたがるこの二年参りともいいます。

二ッポン人には日本が足りない

ある温泉のアメリカ生まれアメリカ育ちの女将が出演しているAC（公共広告機構）のコマーシャルの中の言葉です。「日本人は自分の国の良いところをたぶん忘れていると思います。たくさん良いところがありますので・・・」という女将さんの言葉には、大いに考えさせられるものがあります。このCMは真の国際化、真の国際交流のためには、まず日本人が日本について知ること。それが大切なのだと訴えかけている作品です。

外国に行って初めて日本のことを、自分の国のことを考えるようになったとか、そのよさをはじめて感じたとかいう人の話をよく耳にします。また、留学や転勤で海外に行って、日本のことを質問されて答えに詰まってしまったという話もよく聞きます。宗教は？ときかれて、自信を持って無宗教だと言ったら、仕事をさせてもらえなかった、つまり、信用できる人間でないと思われたということもあるようです。

戦争が終わってもうすぐ六十年。今、日本人の意味での日本・ニッポンジンについて考えてみる時期なのではないでしょうか？　そして、次の世代にしっかりと伝えていかなければならないのではないでしょうか。

読んでみましょう

渡辺重石丸作（国学者本居宣長の門人一九一五年没）

一人一九一五年没）

一十八万二一百

万二三千二

五十四六一十万四八四

四八八三十　三千百万四八四

百八十八五二一十百

一十八五二一十百

一十八五二一十百

一十八五二一十百

「現代は混迷と乱れの時代です。道義が頽廃して、世意味。年神さまを迎えるために、年末の大掃除をして、清の流れに沿って人の道を踏み外すことはない。人倫道徳の教えである言霊文化を大切に子供たちへ語り伝えたい。」

〈公文〉

世は闇と　人は言ふとも　正道に
いそしむ人は　道も迷わじ